

開催概要

○主な開催内容

- ・ 前回までのデザイン調整WGの振り返り
- ・ まちづくりガイドライン深度化方針の説明
- ・ フリーディスカッション

【大宮駅周辺の公共空間の在り方についての深度化】

- ①大宮らしい歩行者空間の在り方
 - ②大宮らしい交流空間の在り方
 - ③災害時のバックアップ空間の在り方
- ・ 総括



○日時・参加者

日 時	11月4日（水）13時30分～16時
場 所	大宮区役所2階201、202会議室
参加者数	37名

主な意見概要

●まちづくりガイドラインに関するご意見

1

(回遊性)

まちとえきをつなぐ
回遊空間をつくる

まちとえきをつなぐ歩行者空間の在り方

- ・ 日常の人の「流れ」と「溜まり」の関係や街区同士のつながりを考え、デッキ・地上・地下の在り方を考えることが必要。
- ・ 地上の歩行者空間を広げるためには交通空間の配置検討が必要である。
- ・ 地下空間を商業店舗でつないで賑わいをつくる必要があるのではないか。
- ・ 中央通路と新東西通路はまちと駅をつなぐ上で重要。24時間通行できるようにしてほしい。
- ・ 年1回の祭りには駅前が重要な場所であり、上部にデッキがない場所で行いたい。

可変性のある空間づくり

- ・ 広場と通路、人と自動車など、様々な目的や対象に応じて、限られた空間の中で歩行者空間・交流空間・災害対策空間等を積極的に使い分けていくべき。
- ・ 可変性のある空間利用のルールづくり、配置の工夫等ができるとうい。

銀座通り・南銀座通りの位置づけ

- ・ 銀座通りは象徴的な通りである。車両（荷捌き、緊急車両等）の動線や利用方法を工夫し、歩行者中心の通りにできると良い。
- ・ 現在は駅前広場で分断されているが、南北をつなげられると良い。

広域的な回遊性の確保

- ・ さいたま新都心にイベントに来た人々が大宮に立ち寄れるよう、通りのつながりを持たせる必要がある。

主な意見概要

●まちづくりガイドラインに関するご意見

2 (交通) ひとにやさしい立体の交通空間をつくる	歩行者のための移動空間の確保 ・ <u>移動距離があっても飽きない</u>道づくりが必要。 ・ 縦動線は歩行者が<u>視認しやすい設え</u>、<u>視認しやすい位置に配置</u>する必要がある。 バス乗降場の配置の在り方 ・ バス乗降場が<u>駅から離れると不便</u>。分散配置にするならば動く歩道のようなハード整備ではなく、<u>次世代交通を積極的に活用</u>できると良い。 自転車の移動空間の在り方 ・ <u>自転車通路のルール化</u>、<u>駐輪場配置の在り方</u>を整理する必要がある。
3 (都市機能) 新たな価値を発信する先進的なまちをつくる	賑わい機能の確保 ・ 地区全体として<u>楽しめる商業施設が隣接し</u>、<u>休憩スペースやイベントスペース</u>として利用可能な設えが必要。 ・ 新東西通路は寂しい空間にならないように、視点場としてだけでなく、<u>商業機能の充実など</u>の考え方も盛り込むべき。 生活者が利用しやすい場の確保 ・ 大宮駅周辺には市民が自由に集える屋内公共スペースが無い。<u>多様な世代が生活者として利用できる空間</u>が必要。

主な意見概要

●まちづくりガイドラインに関するご意見

4 (防災・環境) 安心・安全の要となるまちをつくる	災害に強い都市空間の創出 ・ <u>集中豪雨や強風などへの対応を踏まえて</u>、緑や建物の配置、地下・駅・道路の空間の検討を深めるべき。 帰宅困難者の受入れ ・ <u>日常の広場空間を有効活用</u>し、帰宅困難者の受入れ空間を確保できると良い。 ・ <u>民間施設や鉄道施設等と行政が協働</u>し、災害時には利用できる実現性の高い仕組みやルール等が必要。（一時滞在スペースや備蓄倉庫等の確保・配置、電力供給の役割分担、戸建て住宅でのバックアップ機能の確保等）
5 (景観) 市民が誇らしく思い、来訪者が感動する景観をつくる	大宮らしい景観 ・ <u>氷川の杜</u>は大宮らしさの一つの象徴である。 通りや空間の特性に合った景観づくり ・ 駅前には豊かな緑の配置等で、<u>駅からまちに人を導くシンボリック空間づくり</u>が必要。銀座通り等の<u>商店街は視線を遮らない鉢植えにする等の工夫</u>ができると良い。 ・ 一の宮通りは<u>店舗や交流空間等が立ち並びながら氷川の緑につながる通り</u>である。
6 (エリアマネジメント) まちの質や魅力が持続するしくみをつくる	エリアマネジメントを活用した空間の創出・管理 ・ エリアマネジメントは、<u>賑わいを生む視点に加えて収益を生む視点</u>が必要。交流空間で持続的に賑わいを生み出すには、<u>民間の力の活用、各街区共通のルールづくり</u>などが必要。 ・ <u>高木植栽は管理の負担が大きい</u>ため、エリアマネジメントでの連携が重要となる。

主な意見概要

●その他のご意見

用語について	・ <u>「広場」、「歩行者空間」といった言葉の定義</u> を明確にしてほしい。
ワーキングの進め方について	・ 議論の前提として <u>決定していることは教えてほしい</u> 。 ・ 今の進め方は、 <u>具体的な空間のイメージが理解しづらい</u> 。議論の結果を空間の具体的な検討に反映し、ワーキングで示してほしい。

テーブル毎の記録：Aグループ

歩行者空間
・生活空間

交流空間

災害時の
バックアップ
空間

その他
・全体的な
意見など

歩行者空間・生活空間の考え方

- ・人の「流れ」と「溜まり」を考え、周辺のまちとのつながりやデッキ/地下の在り方を考えることが重要
- ・日常の暮らしの中でどのように歩いているか考えることが重要
- ・距離があっても飽きない道づくりを行うことが重要
- ・昔は小売店が元気だった。地下空間にそのような機能を展開し、周辺とつないでいく必要があるのではないか

氷川参道へつながる歩行者軸

- ・店舗や交流空間等が立ち並びながら氷川の緑につながる通り

バックアップ機能の拡充策

- ・大きなインフラ設備だけでなく、個別の住宅の改修や建て替え等にあたってバックアップ機能の充実に資する取り組みに助成金を交付してはどうか

大宮らしさ

- ・氷川の杜は大宮らしさの一つの象徴

駅前の交流空間

- ・歩行者広場を広く確保。バスやタクシーだけでなく人や商業に開放
- ・駅前には祭りにとって重要な場所。年に1回の機会なので、対応の取り方はバランスが重要であるが、上部にデッキがある場所で祭りをやりたいかというそうではない。祭りの会場はデッキのない地上であるべき

駅前の南北動線

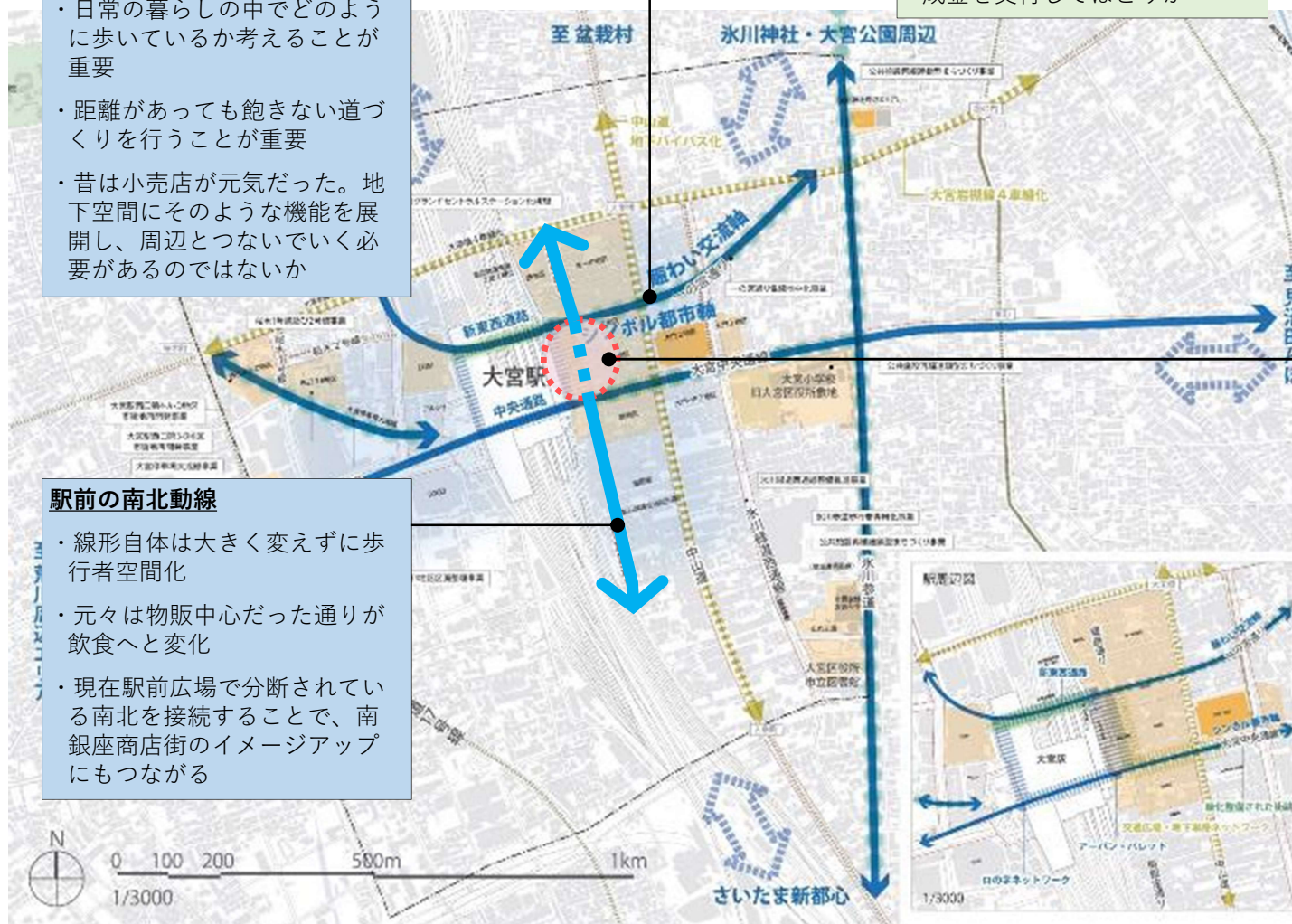
- ・線形自体は大きく変えずに歩行者空間化
- ・元々は物販中心だった通りが飲食へと変化
- ・現在駅前広場で分断されている南北を接続することで、南銀座商店街のイメージアップにもつながる

用語の定義

- ・「広場」、「歩行者空間」といった言葉の定義を明確にしてほしい

WGの進め方

- ・今の進め方は、具体的な空間のイメージを理解しづらい
- ・議論の結果を空間の具体的な検討に反映し、ワーキングで示してほしい



テーブル毎の記録：Bグループ

歩行者空間
・生活空間

交流空間

災害時の
バックアップ
空間

その他
・全体的な
意見など

新東西通路

- ・視点場としてだけではなく、カフェといった付むための商業機能の充実も盛り込むべき
- ・さいたま新都心駅は幅員22mだが、何もないと寂しい空間になる
- ・24時間通行できるようにした方が良い（中央通路を含む）

植栽

- ・緑豊かな空間は魅力的だが、高木は維持管理が大変
- ・駅前のシンボリック空間など大宮の第一印象を決める場所には豊かな緑をつくり、銀座通りなど商業第一の通りは視線を遮りやすい中高木を避けて鉢植えにするなど、メリハリをつけた植栽計画が求められる
- ・都市空間形成の目標6で示されているエリアマネジメントの活用など、ソフト面での連携も重要になる

帰宅困難者

- ・民間施設やJR通路などとも連携して災害時には利用できるようにする必要がある
- ・防災用品等を平時から分かりやすい場所に置くなどすると、市民に対する意識付けや安心感につながる

エネルギーのバックアップ

- ・災害時の電力バックアップは公共側で用意するのか、民間側で連携するのか

水害のおそれ

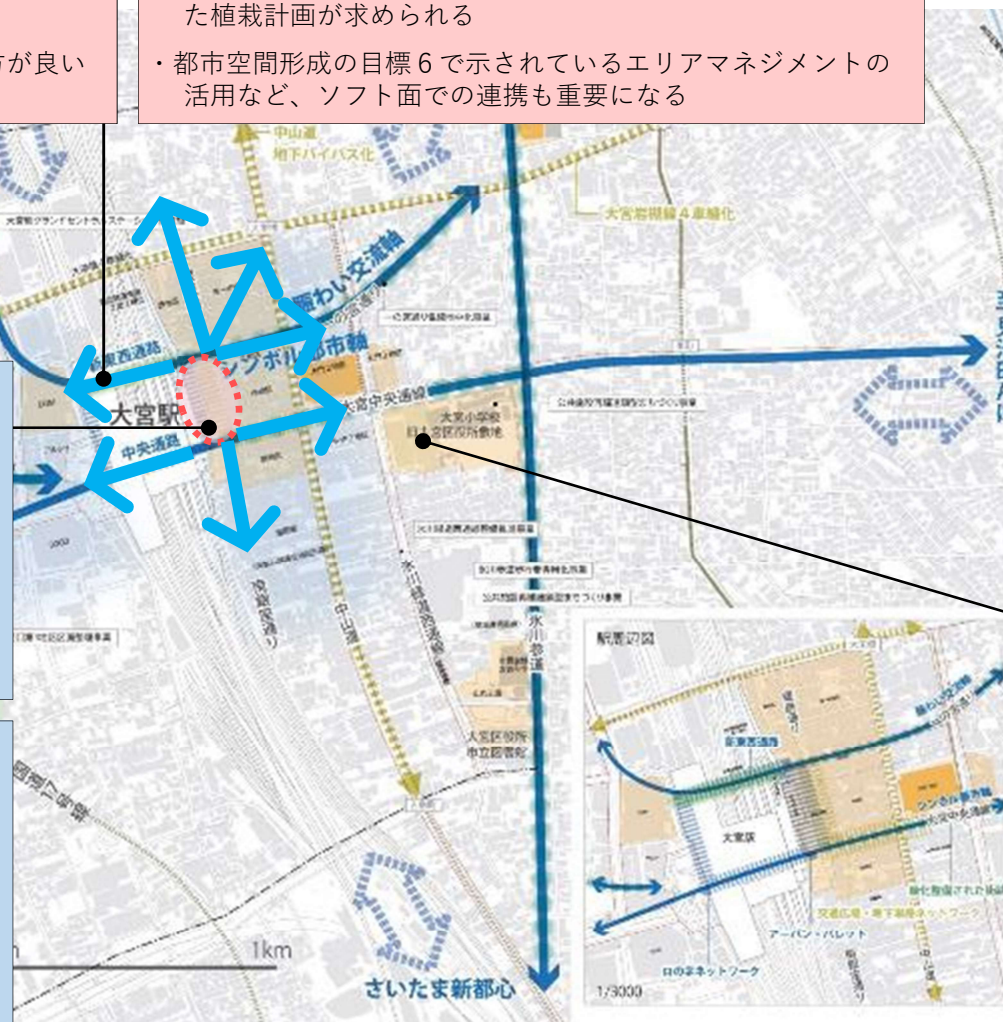
- ・大宮は台地とはいえ集中豪雨による内水氾濫の危険がないか

駅とまちの接点

- ・駅から出てきた人を受け止め、まちに導くようなシンボリック空間が必要
- ・中央通路と新東西通路の間の空間（構想実現案の"公共的空間"周辺）はその機能を担うべき場所であり、導く空間としての位置づけが必要ではないか

市民活動の場

- ・大宮駅周辺には市民が自由に集える屋内公共スペースが無い
- ・アクティブシニアや子育て世代など生活者としてまちに関わろうとする人たちにとっては特に必要な空間であり、都市機能として必要



乗降場の分散配置案について

- ・駅から遠くなるので不便に感じる。
- ・動く歩道のようなハード整備ではなく、次世代交通（グリーンスローモビリティなど）を積極的に活用できると良い

WGの進め方

- ・議論の前提として決定していることは教えてほしい

テーブル毎の記録：cグループ

歩行者空間
・生活空間

交流空間

災害時の
バックアップ
空間

その他
・全体的な
意見など

可変性のある空間づくり

- ・ 広場と通路、人と自動車など、時に応じて様々な目的や対象のための使い分けができる空間づくりをした方が良い
- ・ 限られた空間の中で、歩行者空間・交流空間・災害対策空間等の使い分けを積極的に行っていくべき
- ・ 時間や時期に応じて利用用途の可変性がある空間、あるいは複数の利用用途で空間を共有するためのルールづくり、空間づくりができると良い
- ・ 防災上必要な空間は、交流広場+交通広場を合わせて面積を確保する

地区全体の歩行者空間の在り方

- ・ 歩行者空間の在り方として、街区同士のつながりは、どこをメインに人が通るかを決める必要がある。(地下によるつながりも一つの選択肢)
- ・ 雨や風等の天候の変化を考慮して緑や建物の配置、地下・駅・道路の空間の在り方を決めるべき(昨年の大宮橋付近での浸水、新都心のような強風への対策が必要である)
- ・ 自転車通路のルール化、駐輪場配置の在り方を整理する必要がある
- ・ 地上の歩行者空間を広げるためには交通空間の配置検討が必要

地区全体の交流空間の在り方

- ・ 歩行者が楽しめる商業施設が隣接し、休憩スペース、イベント利用可能な設えが必要
- ・ エリアマネジメントは「公民連携」によることはもちろん重要だが、賑わいを生む視点に加えて、収益を上げる視点が必要。
- ・ 持続的に賑わいを生み出す交流空間の整備・維持管理・運営のための、民地に整備する/民間による運営など民間の力を活かした方が良い。
- ・ 広場空間を一体的に維持管理・運営していけるように、各街区共通のルールづくりが必要

地区全体の災害時のバックアップ空間の在り方

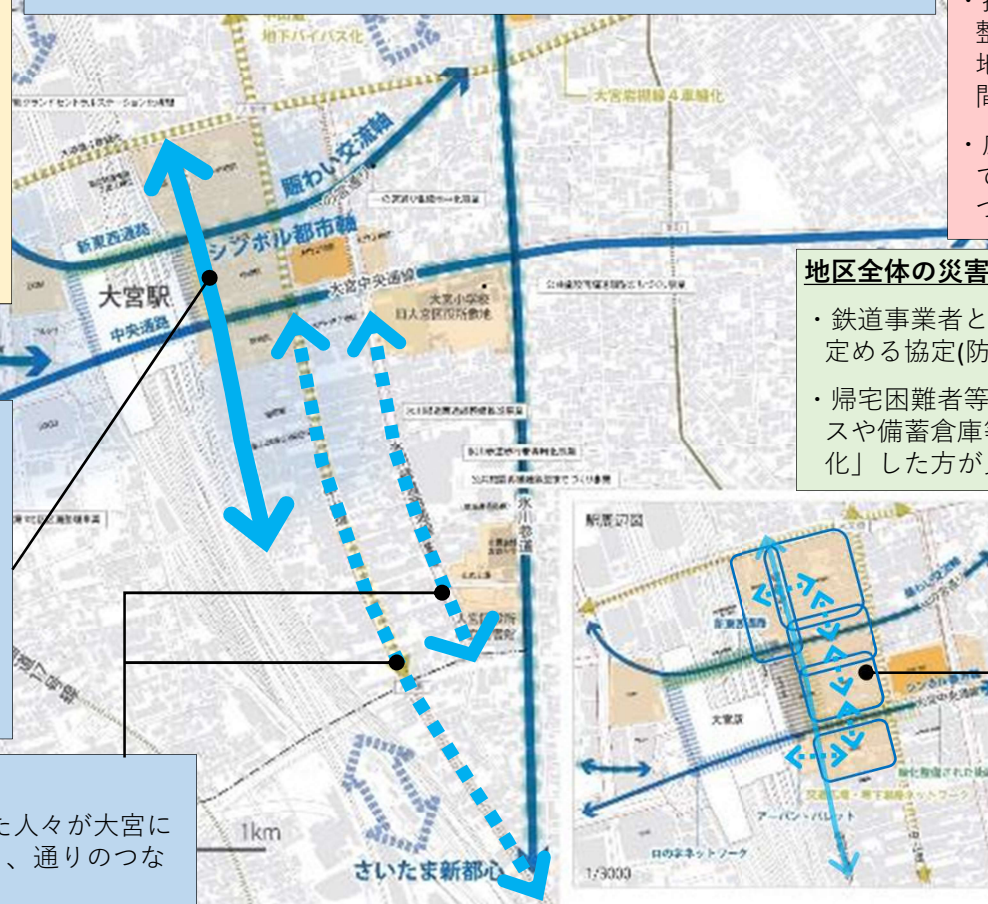
- ・ 鉄道事業者と行政の協働により、災害時の対応を定める協定(防災協定)やルールなどの検討が必要
- ・ 帰宅困難者等の受入れのために、一時滞在スペースや備蓄倉庫等の確保は「促進」ではなく「義務化」した方が良い

歩行者動線軸の在り方

- ・ 銀座通りは象徴的な通りである。車の扱いを工夫し、歩行者中心の場所として開けると良いのではないか
- ・ 荷捌きを地下に取り、緊急車両の出入りを確保できれば、銀座通りや南銀座通りの地上は歩行者中心にできるのではないか

さいたま新都心とのつながり

- ・ さいたま新都心にイベントに来た人々が大宮に訪れたり、泊まったりできるよう、通りのつながりを持たせる必要がある。



駅周辺の歩行者空間のつながり

- ・ 駅周辺再開発の街区同士のつながりを生み出していく必要がある
- ・ 地下を歩行者空間として利用するならば、各街区の考えを理解しあう必要がある
- ・ 縦動線の記載が足りない。縦動線は歩行者が視認しやすい設え、視認しやすい位置に配置する必要がある

全体を通しての意見・質問

○新東西通路について

- ・新東西通路は整備されることが決まっているのか。パースでは幅員が広く見えるがどの程度か。どの高さレベルに接続するのか。
- 新東西通路は整備することを計画に位置付けており、必要幅員15mに、構造体の幅や側方余裕を加えた幅を基本とすることとしている。高さは2階レベルに接続する予定である。

意見用紙で頂いた意見

Q1.まちづくりガイドラインについて

●事業の優先度を考えてほしい

- ・理想、夢は大切ですが、急速な少子高齢化、異常気象、大地震、財政ひっ迫という現実の中で、大宮駅を中心とした緊急整備という命題はいかに迅速、確実に実現させることが最重要です。まず何から始めるか、どれを優先するかをやり出すことが大切だと思います。

●運用段階についての議論も深めてほしい

- ・運用段階の話をどこまで盛込むかは難しいところですが、そこが重要だと思うので、その議論も深めていってほしいと思います。

●東日本を代表する駅になるように全体をプランニングしてほしい

- ・東京駅や横浜駅の様な大宮駅になって欲しい。まちづくりに関しては東日本を代表する一大ショッピング、エンターテインメント、カルチャーセンターとして有効的に機能できる様に全体をプランニングして欲しい。ガイドラインに掲げる6項目はその通りと思うが、現状の進行度合いだと運営の十年に間に合うのか！不安です。

●銀座通りと南銀座通りを結ぶ歩行者動線について具体的な議論を進めてほしい

- ・大宮駅東口の銀座通りと南銀座通りを結ぶ「南北軸」の歩行者動線について、地上レベルまたは2階レベル（ペDESTリアンデッキ）で結ぶのか、具体的な検討案の提示を含めて今後議論を進めていくべきである。災害時のバックアップ体制を考えると、ペDESTリアンデッキを構築し、立体的に空間を持たせた方が有利であると考え。同時に駅改札口からの歩行者動線のこととも考えると、街区側の受入れも有利になると考える。

意見用紙で頂いた意見

Q2.今後の進め方について

●街区同士のルールを決める重要性が理解できた

- ・前回に比べ、目的を長期にはっきり示されたのでよかった。街区同士のルールを決めることの重要性が分かって良かったです。

●WG以外の会議の状況報告も可能な範囲でしてほしい

- ・GCSの様々な会議が進んでいるので、その状況報告も（可能な公開範囲で）共有していただけると議論が深まると思いました。

●市民や専門家の声をプランに取り入れられるように努力してほしい

- ・GCSに市民の生の声が反映出来る様に努力して欲しい。学と公とのコミュニケーションとか。その学識を十分に生かしているのか。コンサルタントの力も十分に利用できているのかをチェックし、プランに反映出来る様にしたい。少しでも良いプランになる様にする為には何が出来るのか、何が必要なのか。

●感染予防対策をしっかりと行ってほしい

- ・コロナ対策について気になることがあります。2回目、3回目共グループワーキングが三密でした。不特定多数の集まりで、もし症状のない感染者がいたらクラスターの発生になる気がします。私自身もコロナに慣れっこになり、以前のような緊張感がなくなっているのを感じています。1回目のようなテーブルをはさんでの形なら安心かと思います。（前の方とはずいぶん空いていた気がします。）是非是非よろしくお願い致します。

●どのテーマに対する議論をしていくか、ファシリテーターが明確に示してほしい

- ・グループ分けしたフリーディスカッションについて意見があります。議論を進めていく上で、ファシリテーターはとても重要です。今回は3つのテーマがありましたが、所属したグループではどのテーマに対して議論をしているのか分かりづらく、議論が分散化しているように思えました。従って、ファシリテーターは、今どのテーマに対する議論をしていくかを明確にしていくべきと考えます。今後のワーキングの参考としてください。